

## 知事広聴（東部地域）議事録

開催日時：令和7年9月4日（木）13時30分から15時

会場：小山町健康福祉会館「ふじみセンター」

出席者：鈴木知事、県民10名、金田広聴広報課長

（広聴広報課長）

それでは会場にお越しの皆様、本日はですね、知事広聴「やすとも知事と県政を語ろう」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私はですね、本日の進行役を務めます県広聴広報課の金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

これより着座にて進行させていただきます。失礼致します。

最初にご留意いただきたいことを申し上げます。

本日の会議録及び動画につきましては、後日、個人情報を除くなどの編集をした上で、県のホームページに公開いたしますので、あらかじめご了承ください。

また、発言内容によっては、担当職員が補足説明させていただく場合があります。

それでは開会にあたり、鈴木知事からご挨拶を申し上げます。

（知事）

はい。それでは本日はご多用の中ですね、知事広聴の方にご参加を賜りまして、誠にありがとうございます。この知事広聴は、県民の皆様からですね、それぞれの地域のことですとか、課題でありますとか、そういったことを率直にですね、お伺いする大変貴重な場というふうに思っております。昨年度ですね、皆様と率直な意見交換できるようにこういう車座形式がですね、形態で開催をするようになりました。いろいろとですね、皆様からいただいた意見がですね、大変参考になることも多いわけございまして、例えば昨年出た意見の中でですね、9月1日に、いつまでも防災訓練をやってたんですね。

これはもう元々関東大震災起こった9月1日を防災の日として定めてたので、とにかく9月1日に防災訓練をやるっていう、役所的な固定観念があったんですけども、ある方がですね、ちょっと待てと、もう9月1日はですね、今の気候変動で猛暑が続いてる中でですね、熱中症患者がね、たくさん出たらどうすんだということで、別に少し涼しくなってからやったらどうだということで、なるほどなということで、今年は11月の17日（正しくは10月19日）に実施をすることにいたしました。

その辺はね、やっぱり柔軟に我々も対応していかなきゃいけないなというふうに思っております。

また、皆様からいただきましたですね、いろんなご意見をですね、いろいろ県政の参考にさせていただきたいと思いますので、今日も限られた時間ではありますが、どうぞよ

ろしくお願い申し上げます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

最初に本日ご発言いただく皆様をご紹介します。

本来であれば、お1人1人ご紹介したいところではございますが、お時間に限りがございますので、手元にある資料の配布にて代えさせていただきます。

それでは知事との意見交換を行ってまいります。

私からお名前を申し上げますので、着席のまま御発言願います。

概ねお2人または3人の方からご意見を伺った後に、知事からお話をいただきます。皆様にご発言いただくため、お1人、4・5分程度でご意見をお話ください。

それでは最初にA様、よろしくお願いいたします。

(A氏)

はい。

御殿場市のAでございます。陸上自衛隊で36年ほど勤務いたしまして、退職後19年ほどになります。

齢(よわい)70を過ぎると、人間は柔らかくなるものですが、今朝目覚めたときに、「あなた、堅いわよ」と妻から一言、確かに堅くなっていました。

なにせ、康友知事と県政を語ろうのトップバッターに指名されましたので、堅くならない人はいないと思います。

まず最初に一言、お礼を言わせていただきます。

幹部自衛官の必読書に「野外令」という教範がございます。

我が国の防衛の指南書とも言えます。

その中に、指揮官の位置というものがあります。

指揮官は指揮が最も容易な場所に位置をする。

そのため、通常指揮所に位置するが、必要により、緊要な地点に位置をするとあります。

あの、最近謝罪に来られた方は存じ上げておりますが、県政の意見を聞きに来られた知事は、私の知る限り初めてです。

本日はありがとうございます。

では、本題に入らせていただきます。

2019年から富士山5合目で、環境保全協力金の徴収の業務をやってまいりました。

今年は、入山料の徴収業務を行っております。

富士山観光の拠点となる須走、富士宮、御殿場の各5合目へのアクセスは、毎年ゴールデンウィークを初めから11月中旬までが可能となっています。

多くの善男善女は素晴らしい景観、ハイキング、登山とそれぞれが富士山観光を楽しんでおりますが、問題点がいくつかあります。

一つ目は、夏山シーズンの 7 月 10 日から 9 月 10 日までは、我々は入山料の徴収と合わせて、登山者の安全に関する事項を指導したり、観光案内を行っていますが、我々が不在となる 4 月のゴールデンウィーク付近から 7 月 9 日まで、9 月 11 日から太郎坊線が閉鎖されるまでの間は、登山者とか観光客に安全等の指導する方がいらっしゃいません。まるっきり無人であります。

二つ目は開山日の問題です。

山梨は 7 月 1 日、静岡県側は 7 月 10 日とずれがあります。

調べたところ、2013 年に静岡県が管理する山頂のトイレが故障して、修繕に 10 日ほどかかった、ということで 7 月 10 日になったということがわかりました。

それ以降は、7 月 10 日が開山日となっております。

三つ目に、いつ噴火してもおかしくないと言われている富士山に避難用のシェルター、5 合目にですね、避難用のシェルターが一つもないこと。

これに対して処置対策として、5 合目へのアクセス可能期間に安全指導、観光案内などのできる人員を配置したらどうかと。

登山者観光客の安全指導とあわせて、アンケート等により、将来の富士山観光のあり方の指針を得ることができ、かつ安全が図られると思います。

また開山日を山梨県と同じ日にすることにより、山小屋の開設も行われ、登山者の安全安心に寄与することだと思います。

シェルターに関しても、登山者観光客の安全安心に寄与するものだと思います。

大きく三つ申し上げました。5 合目へのアクセス可能期間の安全観光指導者の配置、静岡県側の開山日を山梨県側と同一にする、5 合目にシェルターを設置してはいかがでしょうか。

以上が康友知事にお話したいこととございます。富士山観光で山梨と静岡県の違いは「信仰」です。

山梨県は商業に関する町の振興、静岡県は、霊峰富士に対する畏怖の信仰でございます。

もう少し親交を進めてもよろしいのではないかとこのように考えております。

最後に、5 合目での登山者、観光客の皆さんとの交流をエッセイに綴った、人間交差点と題して、書いたものがございます。これまで FM 御殿場、地元誌、地元放送局とかでも岳麓（がくろく）新聞などで掲載していただきましたが、知事の激務の合間にご笑読いただければと思い、本日持ってまいりました。以上で私の発言を終わらせていただきます。

（広聴広報課長）

ありがとうございました。

次に B 様お願いいたします。

(B氏)

Bと申します。

小山町の観光協会の一応、会長ということで、今こうしてお務めをさせていただいてます。Aさん今、素晴らしい立派なお言葉をいただいたもので、私ここまではまとめができておりませんが、でもこうして静岡県政、鈴木知事にこうしてご就任いただいてから、この東部伊豆半島にもこうして目を向けていただけることの感謝でございます。

今までそういう接点とか、またそういうような交流があまり薄かったものですから、今回こういう場をいただきまして、本当にありがたく感謝申し上げます。

また、ちょうど昨年の8月県知事様にお手紙を書かしていただきました。

そんな中で、小山町、もっとこれからまた東部地区をよろしくお願いしたいということと、併せて込山町長もぜひバックアップしていただきたいというようなそんなお手紙をさせていただきます。

今日ここにこんなありがたい機会をいただけたということも、本当に感謝でございます。

今あのAさんの方からも、そんな言葉ありましたが、富士山においてはあのインフォメーションセンターでの観光協会のいろんな業務の中で、やはり富士山の開山式、そして開通式っていうものを、やっぱり一律に山梨、そして静岡県と共有し合って、そしてそういう観光誘致、そしてこういう富士山の立派な素晴らしい場所にいろんなおもてなしの心でお迎えをしたいというような気持ちがございました。

ちょうど今年も7月の10日に開山式の開通式そして神事を行いました、浅間の宮司の××宮司の祝詞の間でも、下山客がどんどん降りてくるんです。

こちらは、さあこれから開通式、そして皆さんにこういう安全祈願をして、そしてお迎えしようっていう体制の中で、一体これはっていうようなことを、今年もそんな気持ちになりました。

ぜひそんなことでこの開通日が皆さんと足並みを揃えていただくようになれば、ありがたいことだと思います。

あと富士登山の入山料です。

ちょっとこれを時々、あらって家族連れがちょっと少なくなったような気がします。おんぶして上がる子供も4000円でしょうか。

そしてまた家族で上がる割引ではないでしょうかとか、いろいろこんなことを考えさせていただきました。県民割引でも、何かそういうような、特価を少し融通していただけたらありがたいと思いました。あのやっぱり須走口の5合目っていうのは、どうしてもインバウンド大体8割、すごい多くなりました。

そんな中で、やはり立派な素晴らしい霊峰富士は、こういう日本の皆さん国民の皆さんの、それこそ毎日毎日のパワー、富士山パワーをいただける最高の雄姿です。

ですから、そんなことも考えて、ぜひその点ご留意いただけたらありがたいと思います。

そしてあの富士山観光のこのちょうど夏山シーズン以外の観光について、いろんな地域振興の中で、もっともっと観光的にいろいろ掘り起こしをしたら素晴らしい場所があるのではないかと、そういう意味で、小山町としても観光誘致に努めてまいりたいと思います。

そしてあと富士スピードウェイ、これは本当に世界に名だたる素晴らしいスピードウェイの名前の中で、今年は込山町長フランスのル・マンまで行って、そしてこの小山町のスピードウェイをいろいろと宣伝、そしてまたそういう中で、この24時間耐久レースっていうのは、この鈴鹿ではやっておりません。

この小山町のスピードウェイだけですので、そういう面でも、ルマン市との提携、調印式をしてきたっていうことは、すごくこれからいろんな面で、観光誘致の中に、また新しいそういう接点ができるんじゃないかと思いましたが、なかなかスピードウェイに来られた方々を、小山町内の観光のところに、おもてなしは難しくなりました。

やはり皆さんもゴルフに行って、ゴルフの帰りに観光しようと思いませんもんね。

ですからそんな意味で、もっともっといろんなこの小山町、足柄、このエリアを、この箱根竹ノ下合戦のこの戦場跡地や足柄古道そういうものをどんどん見直しをしながら、こうしていろいろ観光誘致を考えてまいりたいと思います。

すいませんいろいろお話が長くなりましたが、ぜひよろしくどうぞお願いいたします。

失礼いたします。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

次にC様よろしくをお願いいたします。

(C氏)

はい。

御殿場市のCと申します。

すいません、最初に、あの、私このような場が初めてでして、うまく喋れるかどうか、大変緊張してます。はい。

まず最初にお礼を申し上げたいなと思います。このような貴重な場をいただきまして本当に皆様ありがとうございました。

はい、私の簡単なプロフィールなんですけれども、昨年、御殿場に移住してきました、今現在夫婦でアウトドアのツアーガイド事業というのを自営業でやっております。

そこで、私からの発言なんですけれども、今回はですね、主に観光施策についてお話したかったので、ちょっとお話できればと思います。

先ほども富士山に関連するお話がありましたけれども、今年富士山の登山条例というのが制定されて、それに関連して、観光の事業について、ちょっとお話します。

そうですね私があの、やってるアウトドアの体験事業というのがキャニオニングという体験

事業をやっておりまして、渓谷で小川遊びをしております。仕事柄ですねお客様がインバウンドの方が非常に多くいらっしゃいます。

そこで、はい、3点ほどお願いしたいことがございます。

まず一つ目なんですけれども、登山規制という形と合わせてですね、体験型観光支援の強化に取り組んでいただけないかということです。

というのもですね、この静岡県東部地区は富士山という大きな観光商品あるんですけれども、それにたくさんの人たちは集まるんですけれども、例えば御殿場、小山もそうですね。なかなか皆様が宿泊される、滞在されるような場所、あるいは体験というのは非常に少ないっていうのを声を聞きます。

なので、富士山の登山以外にもできることがたくさんありますっていうことで、自然体験であったり文化的な体験、こういったアクティビティをもっと発信していただければ、より観光業の全体が盛り上がっていいのかなと思います。はい。

2番目にですね、小規模体験事業者への具体的支援ということで、はい。

観光業ですね。

後発で新しく新規で参入していく方ももちろんいらっしゃるんですけれども、なかなか後発だとですね、口コミがまだまだ少なかったり、あるいは知名度がなかったり、なかなか認知されていなかったりっていう問題で、既存の事業者の方に比べるとやはりなかなか不利な部分が多いんですね。

なので、そういった小規模体験事業者に対する具体的な支援ということで、例えば外国語の対応に関する助成制度の創設であったり、安全基準を満たした事業者への静岡県の認証制度の導入で、信頼性と集客向上を実現していくような施策ができればと思ってます。

はい、というのも、私自身静岡県の観光協会の方々とお世話にもなっているんですけれども、最近はですね、この小規模な体験事業者さんがたくさん増えて、お客様も一体どれを選んだらいいかわからないっていうような声をすごく聞きます。

中にはですね、体験商品作ったんですけれども、実際に稼働してない。

カタログには載ってるんですけれども、全然ツアーを行ってないような事業者さんもあったりするっていうのを聞きます。

なので、静岡県独自で何か認証制度を作ることで、お客様に対する信頼性の向上とか、集客の向上に向けて実現できれば良いのではないかと考えております。はい。

そして三つ目、最後ですね、アクセスと滞在インフラについてです。

先ほども申しあげました通り、御殿場小山のエリアというのは、やはり宿泊で滞在される方が非常に少ないエリアです。

大きなホテルっていうのがなかなか少ないっていうところもあるんですけれども、もちろん、あるところはあるんですけれども、例えば今年オープンしました小山町の強羅花壇さんですとか、大きなホテルさんも徐々に進出されてはいるんですけれども、まだまだ少ないかなと個人的には思っております。

そこで、せっかく箱根河口湖例えば富士宮の方だとか、お客様って泊まれる方は、箱根河口湖の方が圧倒的に多いんですけれども、御殿場小山地域でもこういったホテルがあれば、お客様はゆっくり滞在されて、自然を満喫されたりですね、そういったのに繋がってくるんじゃないかなと思います。はい。

あと滞在インフラに関してはですね、なかなか河口湖から御殿場っていうのはバスが出ているんですけれども、箱根から、そうですね、御殿場方面バスもあるんですけれども、なかなか直通で御殿場駅までに少し時間がかかったりとか乗り換えが必要であったりするような場所も多くありますので、何かそこで効率的な交通インフラを整備できたらすごくありがたいなと思っております。

私共も実際、キャニオリングツアー事業をやっているんですけれども、お客様のアクセスが大変というのをすごくよく聞きます。

せっかく体験したいなと思って予約くださるんですけれども、実際集合場所を聞いて、ちょっとやっぱりそういうのでやめますっていう方も、1割ぐらいはいらっしゃいます。

はい。なのでそういったアクセスも改善ができれば私はすごくありがたいなと思っております。はい。

以上が私が申し上げたい内容でございます。

どうもありがとうございました。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは3名の方のご発言を受けて知事よろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございました。

さすが小山町に来ましたら、富士山とかね、観光のテーマが多いなというふうに思いました。

Aさん、いろいろとですね、富士山関係の活動していただいてということでありがとうございます。

3点、問題提起をいただきました。一つは開山日の統一という問題でございます。元々ね、静岡県が7月10日で、山梨県が7月1日という、それぞれ理由あるわけなんですけれども、県外の方は確認しますとやっぱりいろいろ形状がですね、山梨と違うので、開山までのいろいろな積雪とかあったりですね、なかでの準備等々で少しですね、時期をずらさないといけないということで、開山日が変わってるっていう。山梨は山梨で今までの7月1日という伝統があるんで、それ重視しているということですけども、やっぱり私もいろんな人からね、とにかく開山日を合わせたほうがいいんじゃないかというご指摘をいただきますんで、これは来年に向けましてですね、また両県でしっかり調整をしていきたいというふう

に思っております。

また閉山時期の管理者の問題でございますけれども、これにつきましてですね、やっぱり開山時期はね、ものすごくやっぱり人が集中するということで、安全確保の点からですね、いろんな管理をする人を置いたりですね、いろんな方にお手伝いいただいているわけでございますけれども、閉山期につきましては、そうした来訪者が集中をするといった状況にないものですから、常時ですね、管理者を置いておくということは、今のところ検討はしておりません。また必要があれば、また検討もしていきたいと思います。

あとシェルターの問題ですけども、これは元々ね一番登山者の多い御殿場口に対して、失礼、富士宮口5合目にはですね、元々建物あったんですけども、それが令和3年にレストハウスが焼けちゃったことによりまして、施設がなくなっちゃったんで、実は内々検討を進めてきておりまして、今日の新聞にもですね、報道されましたけれども、シェルターの機能を併せ持つですね、新しいその来訪者施設をですね、これから計画をしまいたいというふうに思っております。

いろんな民間の皆さんの知恵もいただきながらですね、しっかり登山者の皆さんに活用いただければですね、魅力ある施設にしていきたいというふうに思っております。

それからB様からですね、4点ご指摘をいただいております。1点目があれですね。

開山日の問題、これ今お話した通り、来年に向けましてですね、山梨県としっかり調整をしていきたいというふうに思っております。

それから登山、入山料でございますけれども、これ一部ですね、例えばいろんな方からの、パブコメとかいろんな方からのご指摘で、例えば教育目的の登山なんかについてはですね、減免措置があってもいいんじゃないかというふうなことでですね。

今そうした教育活動を目的に入山される方につきましては、引率者も含めて、規則で減免の対象としておりますけれども、まだ幅広いその減免対象というじゃなくて、基本的にやっぱりかかる経費ですね、その利益の関係でいきますと、あまりちょっと差をつけるというのもおかしい話になってきますんで、教育目的のような特別な事情があればですね、減免対象としますけれども基本的にはですね、平等でお願いしたいなというふうに思っております。

それから足柄エリアのPRですね、富士山の登山シーズン以外ですね、観光PRのご提案いただきましたけれども、足柄地区、本当にいろいろ、豊かな自然やですね観光スポットがたくさんあるところでございますので、しっかりですね、それをPRしていかないと、県でもですね、富士山周遊情報サイト「富士山ぐるっとリップ」っていうのがあるんですけど、そうしたところでですね、足柄エリアの今、魅力等もですね、発信をしているところでございます。

またあの、神奈川、山梨県とですね、あと関係市町とですね、協議会を作りまして、富士箱根伊豆の広域の観光ルートの設定につきましてもですね、検討してるところでございます。いずれにしても登山シーズン以外にですね、観光PRにも努めていきたいと思います。



富士スピードウェイについてはですね、本当にこれ非常に大事な我々にとってもですね、観光資源であり、地域活性化の要だというふうに思っております。

これはレースイベントこれやっぱりこういうレースってやっぱり富裕層がですね、たくさん来るんですね。

ですから富士でもレース開催中はですね、世界から多くの富裕層が訪れますし、隣接にハイアットかな、できたホテルですね、非常に好評だというふうに伺っております。

ですからせっかくトヨタさんも力を入れていただいている事業なので、富士スピードウェイに来た方がですね、これ周辺もう少しですね、観光をしたり滞在をしてもらうというのは大事なことでございますので、いろいろとまた考えていきたいと思ひますし、富士スピードウェイさんとは今年の4月にですね、モータースポーツの振興地域活性化等に係る連携協定というのを結ばせていただきました。今後まだいろんな周辺施設の開発を含めてですね、あの地域の活性化について、トヨタグループさんも力を入れていくということでございますので、一緒になって取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

いずれにしても大事な施設でございますので、一層活性化について検討していきたいと思ひます。

それからCさんからは3点いただいておりますかね。

体験型観光のですね、もうちょっと支援をお願いしたいということでございます。

県の観光者用サイトでハローナビしずおかというのがありますが、そこでスポーツだとかアクティビティなどの情報をですね、発信しております、御殿場富士エリアでですね、ラフティングとかサップとかですね、カヤックなどの情報発信もしているところでございます。体験型の観光ってのは今、非常にブームでございますので、しっかり県としてもPRに取り組んでいきたいというふうに思ひます。

それから認証制度の話も出ました。

これ安全対策等に対するですね、独自の認証制度というのがあった方がいいんじゃないかというご提案でございますので、他県の事例等もですね、研究しながら、研究してみたいというふうに思ひます。それから、アクセスと滞在インフラの整備についてでございますけれども、今富裕層の取り込みをですね、これあの、この地域だけでなくて全県的に富裕層のインバウンドのですね、取り込みを県では検討しております、そういう意味ではですね、そういう富裕層向けのですね、高級ホテルの誘致に今取り組んでございます。この御殿場小山エリアは大変そういう点では有力な候補地だというふうに思ひます。富士のスピードウェイもありますし、強羅花壇さんが出てくるというのはそれだけ、マーケット的に魅力があるということでございます。

箱根以上のですね、高級ホテルで一泊10万円以上するということですね、そういうホテルができるってことはですね、それだけマーケットとしての魅力があるということでありますので、今後もですね、そうした誘致について、しっかり小山町さんとも連携しながら進めていきたいと思ひます。

それから、交通については、基本的にこれ交通事業者さんがやらなければいけない話になりますけども、一方ではやっぱりもちろん観光客もそうですし、地域住民の皆さんもですね、公共交通がどんどんどんどん衰退していく中で非常にお困りでございますので、今県ではですね、ライドシェアというですね、新たな交通の仕組みについて取り組んでいきたいと、実はこれは私市長時代からずっと取り組んできた事業で、今国の規制緩和をですね、勝ち取りまして、ライドシェアをですね、全国に普及しようという取り組みをしてますけれども、県の中でもですね、今全 35 市町が参加してくれてる地域公共交通活性化協議会の中にですね、ライドシェア専門部会っていうのを作りまして、そこでライドシェアの普及促進に取り組んでいます。例えば、河津町さんもですね、河津桜の時期にこのライドシェアに取り組んで、非常に成功しまして、なんとですね、ドライバーをね、河津町の町議会の先生方がやってくれたという。自ら自分たちがドライバーを引き受けてくれて、で、やっぱり実感するわけですね。いやこれすごいなっていうことで、今河津町では今河津桜の時期以外にもですね、このライドシェアをですね、住民の足として活用しようという検討も始まっているというふうに伺っておりますし、ぜひこれをですね、全県的に広げていきたいなというふうに思います。

交通というのはこれからも大事なテーマでございますので、いろいろ我々の知恵を絞ってまいりたいと思います。私からは以上でございます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは引き続き、参加者の皆様のご意見を伺って参ります。

最初にD様よろしくお願いいたします。

(D氏)

はい。函南町で会社経営をしています。

早速意見を述べさせていただきます。

一つ目は浜松新野球場の建設問題です。

昨年静岡県ではパブリックコメントを実施し、その時には新しい調査結果があったのに、開示されなかったということが問題になりました。私も意見提出者の 1 人ですが、建設費用は上振れするという試算があるはずと意見をしました。無視されたなという感覚を今でも持っています。

県民を裏切るような情報開示は許されないという気持ちでいますので一言言わせていただきます。

本来は県知事に謝罪をしていただきたいと思っておりましたが、報道では今週一つの動きがあるとの報道がありますので、今日のところではしっかりと開示をしていただきたいというところに意見とします。

二つ目、県立新図書館建設に関して、報道では国の交付金が 100 億円以上足りないとなっております。

静岡県のホームページを見ますと、立ち止まって方針を見直す、年内をめどに更新をと書いてありました。

私としては、県民への説明責任が果たされていないという気持ちでいます。

なぜ 100 億円以上足りないのか、経緯、原因をしっかりと情報発信していただきたい。

具体的にはホームページに早急に記載を加えていただきたい。

三つ目、県実施のクラウドファンディングについて、静岡県ではクラウドファンディングをしておりますが、達成率が悪いものが多く、最初っから資金が集まらない、毎年自動的にクラウドファンディングをしているものがたくさんあります。

担当課が責任を持つべきなのか、電話をすると財政課のせいだというふうに言われました。どこにも責任を取っていないだけではなくて、そもそも統括していないと思われます。

同じ時期に複数のクラウドファンディングが実施されているので、資金が分散される。

そこで提案があります。クラウドファンディングの担当者、担当部門を作るべきだと思います。よろしくお願いします。

現状クラウドファンディングについては、しいたけやメロンの研究開発、これは 27.6%と 14.8%で達成率が終わっております。

現在子供の居場所作り、3 分の 1 の期間が終了した時点で 5.7%、1%、2.7%、立ち上がりの数字が悪いんで心配だというふうに担当課に電話しましたが、全く話を聞いてもらえませんでした。

この子供の居場所作りについては関心が高い分野なんです。

昨年浜松市では 2,125 万円、もう一つ 1,018 万円資金を集めています。

そのことについて担当課に聞いたところ、もちろん把握しているとの回答でした。

昨年体力アップコンテストというものもあります。これは達成率 6.8%で終わってます。

ジュニア防災士、これも毎年自動的に行われてますけども、10%以下、もしくは 10%前後、今年に限っては 6.6%、ほとんど集まっておりません。

事業の必要性と、クラウドファンディングなどで応援したい、静岡県を応援したいという気持ちが合わさって、成功するものですからずっと放置されている問題なので、しっかりと対応していただきたいです。

最後には、森づくりタウンミーティングについて。5 月から 6 月に開催されております、森の力再生事業というものがあります。

これは森づくり県民税の課税期間の終了にあたってタウンミーティングを開いたものです。県では事業の成果、進捗、荒廃森林の状況を県民の皆様に伝え、意見を伺うということでした。

私もいくつかの会場で参加しましたが、静岡県の考え方、今後の方針・計画について質問したところ、「間に合わなかった」と言われました。

間に合わなかったのに次、いつタウンミーティングをするんですかと言われたらアンケートを実施すると言われました。

アンケートというのは県政インターネットに関するアンケートはもう実施されておりますので、何のアンケートをこれから実施するのか、全くよくわかりません。

県民とのタウンミーティングはしっかりと対応していただきたいという気持ちがあります。よろしくお願いいたします。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

次にE様お願いいたします。

(E氏)

Eでございます。

御殿場市に住んでおりますが、東京に行ったり関西に行ったり、いろいろなことやっておりまして、メインは食材研究所の所長をやっております。

そういう中で今回、御殿場の、あるいは2市1町のその状況を、ぜひとも県知事に知っていただきたいということで、今日発言させていただきます。

ただ先ほど、陳情にはならないようにという釘を刺されましたので、現状を何とか説明したいなと思っております。

1月24日のですね、静岡新聞に県の康友知事がですね、24年の知事選で県東部への医大誘致を公約に掲げていたと。

それが地元のあまり賛同が得られないで、結局のところ白紙にして、医師だけを派遣しようというふうになったという記事がありまして、本当のところで言うと、2市1町ではですね、医師が足りないだけじゃなくて、もっと救急医療を何とかならないかということの意見が、今非常に盛り上がっておりまして、2市1町で1万人以上の署名が集まっているという状況ですね。ぜひとも知事には知っていただきたいなと思ひまして、私ここに立たせていただいております。

そしてまた、日赤がですね、これから建てかえるというような話も出てきておりますので、地域の、要するに小山町、御殿場の地域と、裾野は医療圏が違ふと、そういうような狭い判断ではなく、もう少し広域に、そうすると大体15万人市町になるということですので、ぜひとも広域に人口が減ってるからってというような考え方じゃなく、広域で対処してもらえないかなあということで、一つの現状をですね、把握していただきたいと。

あとファルマバレー構想もですね、今後の課題として大きな産業としての可能性もございますし、そういう中で、二点目の教育の話にも繋がるんですけど、国際病院的なですね、大きな目で、この地域の医療を変えると、いうことをですね、考えていただけないかなということで今日ここに参りました。

医療についてはですね、医師会がいろいろなコメントがあつてですね、日本全体の問題だとは思いますが、それをやはり富士山の裾野で新しい医療、そしてそれがファルマバレー構想の中に組み込まれて、そして最先端のロボットとかAIとか、いろいろ遠隔も含めたものができるように、ぜひとも新たなるその計画の立て直しを要望するものでございます。特に県知事にはですね、駿河療養所をですね、訪問していただきたいと思ひまして、そのことも一つ加えておきたいなと思っております。

次の教育システム、あるいは教育についてですが、裾野と、御殿場と小山で4つあった高校を2つにすると。

そして、大きいところで御殿場に1,000人規模くらいの大きい高校をつくるという話なんですが、そして、小山町は、小山町として頑張つて、スペシャルな学校を残そうというふうなことで今日もいらっしゃってますけど、町長、込山町長が頑張られたというふうに伺っておりますんで、やっぱりスペシャルな高校ってのは何なのかというふうなことからすると、やっぱりこの辺では地元では林業とか農業のことも大切ですし、それにやっぱり先ほども言いましたようなインターナショナルなものを加えると、実際にあの浜松にはインターナショナルスクール、あの静岡でもインターナショナルスクールってことで、どうもね、いろいろやられてるようですが、この地域、インバウンドも多いですから、やっぱりそのなんていうんですかね、全寮制の東南アジアから人を呼んで、そして農業とかいろんなこともやりながら、観光もできるような、そういうふうな新しいスペシャルなものをぜひとも県の方でも考えていただきたいということで今日ここに参った次第でございます。よろしくお願いいたします。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは2名の方のご発言を受けて知事よろしくお願いいたします。

(知事)

はい。ありがとうございます。

Dさんからまず浜松新野球場についての話がございました。

特に何か県の方で隠してたということはないわけでございます。建設費てのは日々上昇しますので、どの時点で開示をするかという問題になってくるかというふうに思います。

いずれにしても、これもう県単独でですね、整備できる規模のものではございませんので、今ご案内の通りですね、民間からいかにですね、その投資を呼び込むかということですね、その可能性を今探っているところでございまして、釈迦に説法であるかと思いますが、これからのスポーツ施設ってのは単体で、なかなか成立しないんで、周辺いろんなですね、ホテルでありますとか、居住施設とかですね、商業施設とか、いろいろもっと複合にしてですね、集客をして、その中でですね、稼働率を上げてくと、例えば北広島のエス

コンフィールド、これ100%、周辺整備は北広島がやってますけれども、本体についてはですね、これ日本ハムファイターズがですね、事業者として投資をしてやっているものでございまして、あるいは長崎のスタジアムシティもこれもですね、ジャパネットさんが全投資をしてですね、作られてるということで、民間投資、そうした民間投資をですね、いかに売り込めるかというのが鍵になってまいりますので、今そういった民間からですね、アイデアの投資も含めてですね、募集をですね、しているところでございます。

1点目がそうですね。それから二つ目はちょっと今のにも関わってくると思いますが、先日の中央図書館につきましては、なんで100億もですね、補助金が足りなくなったのか、これ議会からのご指摘をいただきまして、教育委員会としてしっかりそこを精査してですね、議会の方にそれをお返しをしてるところでございます。

その辺のですね、反省も含めて、今後に繋げていかなければいけないと思いますが、やっぱり見通しが甘かったって言われれば、もうそれで終わっちゃうわけでございますけれども、なかなかですね、そういう大きな補助金をですね、当てにしてやっぱりちゃんと確保した上でやらなきゃいけないわけですね。

些細ながらこれ、もう一度ですね、見直す。これ修正っていうレベルの話じゃないんで、もう一度ゼロからですね、見直していかなければいけませんので、先ほどの野球場と同じように、民間のですね、最大限知恵をですね、投資を呼び込みながら、もう一度ですね、県立図書館の機能のあり方、それも含めてですね、検討していきたいというふうに思っております。

クラファンにつきましては、今ご指摘いただいたことはですね。本当その通りだなというふうに思いますが、やっぱり結果というものを重視していかなければいけませんので、もしご指摘のですね、結果であるならば、これはですね、大変問題だなと私も思います。

クラウドファンディング自体ですね、やり方含めて、どういうふうにしていかなければいけないというふうに思います。

それから森づくりタウンミーティングについては、何か計画を示すつつたら間に合わなかったからっていうご発言があって、ちょっと私も確認しないとわかりませんけれども、基本的にはですね、今後のですね、方針決定のためにですね、今までの森づくり、森の力再生事業のですね、成果ですね、それからまだまだ、新たにですね、整備しなきゃいけないという険しい面がいろいろある中でですね、そういうことについての対応について、いろいろ県民の皆さんからご意見をいただくということで、開いたタウンミーティングというふうに伺っておりますので、しっかりこれから皆様のご意見を生かしながらやっていきたいと思ひますし、タウンミーティング自体はですね、公開で、しっかりやってるはずでございますので、引き続きそういった形で進めていきたいと思ひます。

Eさんから医療の話出ました。これは非常に悩ましい問題でございます。

私もいろいろ知事になってからも、この問題に正面から向き合ってますけども、やっぱりいろいろですね、検討した結果釈迦に説法だと思いますけれども、もうあと数年で、マクロ的にはですよ、お医者さんのですね、数がですね、もう段々余ってくる時代に入っていくという中で、新たにですね、どんどん病院を作るとかそういう時代ではないということでございます。さりながら、今の医師の偏在はですね、何とかしていかなきゃいけないという中で、やっぱりあの、医大とですね、順天堂大学にしっかり協力をしていただいて、指導医と研修医セットで派遣してもらうことによって、そこでどんどんどんどんお医者さんを蓄積をしてく、増やしていくということによってですね、医師の偏在をですね、解消していきたいと、これが回り道でも1番効果のあるですね、手法だなというふうに今思っております。これぜひ医大と順天堂ともですね、連携協定を結んで、しっかり進めてまいりたいというふうに思います。

それから病院の建て替えについては今、あの裾野赤十字病院の建て替えについて、8月8日にですね、その支所からですね、補助金等の対応の要望をいただいているところでありますので、引き続き裾野市さんとも連携しながら、対応していきたいと思っております。

高校につきましてですね、これまで4回ですね、地域協議会を公開の場で開催をし、いろんな皆様からご意見をいただき、今日おいでの込山町長も含めてですね、あの御殿場の勝又市長とかですね、裾野の村田市長とか、そうした首長の皆さんも入っていただいて、議論した結果、一つの大きな学校とですね。それから、この小山町にはですね、特徴、特色を持った学校を作るということで結論を得たということでございますので、この小山町にできるですね、高校につきましては、しっかりまた小山町さんともですね、お話をしながら、どういう特徴を持った方向にしていくのかということについて、しっかり検討していきたいというふうに思います。

私からは以上です。

(広報広聴課長)

ありがとうございました。

それでは引き続き、参加者の皆様のご意見を伺ってまいります。

F様よろしくお願いいたします。

(F氏)

Fと申します。よろしくお願いいたします。

私は沼津市から参りました。2020年に移住して来まして、本業は建築士なんですけれども、沼津に来てからは建築の範囲を広げて、アートの振興、地域振興の団体だったりとか、子供の居場所とか遊びを支えるような団体の代表を務めています。

私としては建築の設計においても保育園とかこども園とか、子供たちの空間について考えることが多くて、建築に限らず町の中単位で子供たちが生きる環境っていうのが豊かに

なるように少しでも一助になればいいなということで活動してます。

その件に関して今回は発言させていただきます。

子供たちってどうしても交通弱者と言われるだけあって、徒歩とか、自転車で行ける範囲がその子供たちの世界の全てみたいになってしまうところがどうしてもあるのかなと思っていて、だからこそ子供たちが行ける範囲の地域の単位っていうもので、いろんなものが充実しているってことがすごく大事なんじゃないかなと思っています。

そこで私東京から移住してきたんですけれども、特に沼津に来て、アート関係のものがどうしても少ないなっていうのが印象としてありました。

自分が建築をやっていたこともあって、そういうものに触れる機会が多かったのもあるんですけれども、街を歩いていても美術館のポスターとかがあまりなかったりとか、なかなか触れる機会がないなという実感がありました。というのも、東部伊豆地域では公立の美術館というのが二つしかないっていうことがありまして、そのうちの一つの沼津市の公立美術館である庄司、沼津市庄司美術館というところの今指定管理の運営をしております。ただ、なかなかこの小さい美術館でして、小さい予算の中で頑張っているところではあるんですけれども、そういった美術文化関係の活動みたいなのがどうしても力が少ないなっていうのは感じています。アーツカウンシルしずおかさんの方ともの繋がりを持たせていただいている、そこで今東部伊豆地域文化ゾーンの構築っていうところの話も進んでいるんだよみたいな話は、聞きました。

こちらがクレマチスの丘のヴァンジが閉館になってしまったので、その後の利用、利活用を考えているっていうところで今活動進んでいるんだよって話だけは伺ったんですけれども、そこで、まだ、まだ始まったばかりなんだと思うんですが、ぜひ私達の小さい団体はいっぱいあるので、そういった人たちをどんどん利用して、地域の中で文化芸術に興味のある人たちをどんどん巻き込んで、そこに支援していただけると、多分もう少し盛り上がっていくんじゃないかなというふうに思います。

それが一つ目の芸術文化に関することっていうところですよ。

もう一つが、まちづくりに関してというところで、建築っていうところもあって都市計画的なところで、まちづくりに関する仕事も携わらせていただくことがあるんですが、沼津ではリノベーションまち作りっていうのを、8年前から始めていて、あの少しずつ小さな空き家だとかそういうのを改修して、実際にお店を作ってっていうことを、意欲のある人たちが進めてきています。そのネットワークはすごく皆さん明るく背中を押してくれる人たちで、私も沼津に移住してきてから活動するにあたって、すごくいろんなことで背中を押してもらっているんですけれども、リノベーションまちづくりが続いてきて、少しく盛り上がった中で、その辺を持続させていくことっていうのがすごく難しいんだなっていうことが、今なんとなく見えてきてるなっていうふうに感じています。

みんな最初はどうしても私の活動もなんですが、ボランティア、半分ボランティアみたいな形で頑張るぞと、あの意欲でできるんですが、なかなかそれを持続していくというのはす



ごく難しいことで、商業に関してもアートとか文化に関しても、なかなかこう 18 万人の人口の中で、うまく商業回していくってのは難しいなっていうのは実感としてあります。なので、先ほどの文化芸術に関することも、そのまち作りっていうことに関することも、少し範囲を広げて、沼津市以外のところとの連携みたいなところがより強く生まれてくるといいんじゃないのかなと思って、あの今日はこういう機会ですでお話させていただきました。ありがとうございます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。  
次にG様お願いいたします。

(G氏)

こんにちは。Gと申します。  
まずこの貴重な機会、ありがとうございます。  
ええとですね、私伊豆の国市の地域おこし協力隊ですけれども、それに関して、地域おこし協力隊同士の定期的な交流の場の創設に関して、お話したいと思っておりますけれども、今年、4ヶ月前に協力隊になりましたんですけれども、他の町の協力隊との交流とか出会いとかほとんどなく、本当にすぐ隣の町に何人ぐらいいるかって想像できないっていう現状ですけれども、その交流があまりない理由としては、もしかして市役所とかあまり望んでいないかもしれないっていうちょっと考えることはあるんですけれども、地域おこし協力隊の制度の目的が、町の人口を増やすっていうことですよ。  
なのでもしかしたら他の町あんまり深く関われないような気持ちがあるってちょっと感じていまして、実際のことですけれども、私の前の先輩が伊豆の国市のイベントをするときに、あの隣の町のあの生産物そのイベントでちょっと販売しようプロモーションしようっていう提案があったんですけれども、それに対してちょっと反対の意見、市役所からいただいたので、そのイベントを進むことができなかったんで、あんまり自分の活動とか町以外にあまり関わらないっていうことをちょっと感じていましたんですけど、個人的に初めて知らない町に行って、協力隊として町を盛り上げるっていう目的として、もし他の地域おこし協力隊の交流があれば、自分の問題とか、企画作るときに何か、どういうふうに進めばいいとか何かいろいろヒントとか、相談場になるかなと思いますので、協力隊同士いろいろ静岡県内結構多いと思いますので、交流場があればすごく利益になるかなと思って、協力隊の目的は元々地元を元気にするっていう大きな目的ですよ。なので、お互いの交流とか、相談場があればお互いの町に利益になるかなと思ってらるんですけれども、県として、こういうような交流がどういうふうに考えておられますと、ちょっとお聞きしたいので、鈴木知事さんのお考えを聞きたいと思います。  
はい、以上です。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは2名の方のご発言を受けて知事よろしく願いいたします。

(知事)

はい。ありがとうございます。

Fさん移住されて来られてね、いろんな活動をしていただいてということでありがとうございます。

1点目のアートとかね、活動の場を欠くとかそういうお話であったと思いますが、あの公立の美術館は2つしかないと思うんですが、僕は実はですね、伊豆とか東部って、あのちっちゃな面白い博物館とか美術館がいっぱいあるのと、これを何かうまく活用できないかなって思って考えてたら、これはアーツカウンシルしずおかの人と話したら、彼らも全く同じことを考えてて、ちょっとそれやろうって今話になってまして、ですから公立の美術館だけがいいんじゃないくて、民間でも今ね、面白いものいっぱいあるんで、ぜひそういうところにもね、ご注目いただきたいと思いますし、ヴァンジにつきましては、今民間からのですね、いろいろアイデア募集して、指定管理でやっていくと思いますけれども、長泉町さんが管理されてるエリアも含めてですね、いろんな方に参加してもらって盛り上げていきたいと思いますので、ぜひまたご参加いただければというふうに思います。

2点目のリノベーションまちづくり、これね本当その通りです。実は私ずっとリノベーションまちづくりやってきて、はい、浜松市のときに、もうこれしかない、中心市街地の活性化って、御託並べるよりも、1店舗でもね、空きビルや空き店舗を再生させてった方が早いね、これご存知だと思いますけど、北九州市から始まったリノベーションのスクールってのが発端で、浜松でも一生懸命やってきまして、私が実はですね、日本で初めて始めたのが、リノベーションスクールって個人を相手にやってんただけど、これ企業を入れた方がもっと面白いんじゃないかということで、企業版リノベーションスクールを初めてやったら、やっぱりね、やっぱ企業さんの方がだいぶいろいろ提案してくれて、そっから実はですね、浜松のまちづくりどんどん進んでるんですよ。

春華堂さんとかですね、鳥善のXXさんとか、まちづくりのいわゆるキーマンがあらわれるんです。キーマンがいないと、まちって変わらないんですよ。

例えば静岡だと、ご存知だと思う創造舎のXXくんってのがいて、もう彼が全部まち変えちゃったんですよ。

人宿町なんてほとんどもう寂れちゃった町がですね、今やですね、もう若い人たちがガンガン来るね、まちに変わりましたし、匠宿ですね、もうどうしようもなかった市の施設を蘇らせたし、丸子の宿自体をですね今古民家の再生したり新しいレストランを作ったりですね、見事にまちを再生してて、熱海、大きな町でないとできないんじゃないくて、熱海も実は

リノベーションのまちづくりすごい進んでるんですよ。

ですからそういう例がいっぱいあるんで、実は昨年ですね、私リノベーションまちづくりプラットフォームを、県としてつくりまして、これは県がやるっていうよりも、そういうキーマンを発掘し、そういう人たちにまちづくりをやってもらう環境作りをしていくってのは大事なので、プラットフォームを作って今活動始めてますんで、ぜひね、ご参加をいただきたいなというふうに思います。ぜひまた頑張ってください。

これね、あの持続性の話ありましたけれども、これやっぱり、役所がやるもんじゃないんで、持続性はやっぱりキーマン、必ずそのキーマンが1人居ればですね、持続可能なんですね。だから、三島なんかでも加和太建設っていうところが一生懸命まちづくりやってくれてますけど、そのXXさんってのはやっぱりそう思いを持って、活動してるんで、そういう人が1人現れるかどうかでまち変わるんですよ。

ぜひFさんがそのトップになってもらえるとありがたいなと思います。

Gさんから地域おこし協力隊のですね、お話ありましたけど、実はね今交流会結構やってるんですよ、ええ。

だからちょっと情報がちゃんと入ってなかったと思うんですけども、今年度も静岡市と沼津において対面で2回ですね、交流会やりますし、研修会ってのもオンラインでですね、3回実施する予定になっているということで、ぜひ情報交換してですね、交流できる場を作っていこうというのも結構皆さんそういうふうに思ってますんで、そういう環境は更に整備していくと同時に、やっぱり隊員の方にそういう情報がね、ちゃんと伝わってないということだろうなと今思いました。

ですからそれはちゃんとやらなきゃいけないなというふうに思います。それから本年度から隊員のOBとかOGが中心になってですね、協力隊関係者で構成される新しい団体ってのができて、その活動を始めてるということなので、ぜひですね、そういう情報をまたしっかり御提供しますので、そこに参加をしていただければというふうに思います。

私からは以上でございます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは引き続き参加者の皆様のご意見を伺ってまいります。

最初にH様よろしくお願いいたします。

(H氏)

はい、鈴木知事、こんにちは。小山町から来たHと申します。

私はですね、小山町に東京から移住してきて3年目なんですけれども、観光業に長く携わっておりまして、今は東京で欧米豪の富裕層のインバウンドの旅行会社に勤めながら、小

山町でフルリモートワークで、あの富士山の麓楽しく働いております。今日このような機会をいただいております。

ここで今、皆さんからお話をいただいて、観光を盛り上げたいっていう話がすごく多いなというふうには伺ったんですけども、私もまさにその1人でして、会社としてはあの日本のインバウンドを盛り上げるということで頑張っているんですけども、私はここ静岡県に移住してきてから、いやちょっと静岡県の魅力が凄すぎるなというふうに感じておりまして、言うなればですね、イケメンなのに自分のイケメンに気がついてない人みたいな感じでして、この魅力をどうにかちょっと発信していきたいなって、ちょっとプライベートと仕事を混同してるような状況でございます。はい。

例えばですね、昨年ですかね、アメリカの富裕層のエージェントの方を伊豆の方にご案内して、達磨山に連れてったんですね。あそこは海越しに富士山が見えて、すごく綺麗なんですよ、どうですかって言ったら、なんでこんなすごいところが、観光地化されてないのと、いやもうおっしゃる通りでして、みんな富士山を見るには箱根から見るものだと思うんですよ。

でも箱根から見るとちょっとプリンの頭みたいな感じじゃないですが、勿体なさすぎると、そのお客さんどうしてるかっていうと箱根から今度、小山町・御殿場をスルーして、河口湖にいくわけなんです。河口湖から見ては富士山とか言ってるんですけど、違うと。私から言わせると、小山町・御殿場・裾野から見る富士山を見てみなさいと教えてあげたくなるぐらいなんです。

先ほどからいろいろなお話がありましたけれども、いろんな問題がありまして、例えば車、交通機関がちょっと足りないですとか、例えば富裕層を満足させるアルファードが足りない。それから宿が足りない。で、宿はね、強羅花壇富士さんが来て、私すごく嬉しいなと思ってるんですけども、色々なタイプに応用できる宿が足りない、それからそれを説明できるガイドがいなくて、いろいろあるんですけども、いずれにしろちょっと静岡県はもったいないイケメンだと思っております。

もう一つですね、先日ちょうど三島にある大変素敵なお野菜を育てていらっしゃるフードカルチャーネサンスさんというところがありまして、その方が育てる野菜が素晴らしいすぎて、おそらくこの箱根ですとか、この辺の東部の高級旅館それから有名なレストランにお野菜を卸しているすごい素敵なお野菜があるんですけども、そこで銀座のプロフェッショナルの料理人に来ていただいて、畑を前にすごく素敵なお料理をいただく機会があったんですよ。

そこも景色が抜群で、富士山が素晴らしくて、こういったものを海外の方に発信していれば、なんと素晴らしいことになるのだろうと、何か言うだけでワクワクしたんですけど、いずれにしろ富士、静岡県はとても魅力があって素晴らしいところで、でも多分あのプロモーションをされたら、もっともっとのびるんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひあのプロモーションに力を入れていただきたいと思います。今この場におります。具

体的に言うのですね、来年度も観光業にどんどんお金をを出していただきたくって、事業費、例えば先ほどのガイド育成をする事業もそうですし、ホテルをもっと誘致するものですか、私も既に知事がやってらっしゃることは十分知っててここに来てるんですけど、もっともお金を注ぎ込んでいただきたいなと思っております。

それから先ほどCさんの方で初めて事業携わる方とかにもじゃんじゃんとお金をを出していただいて、さらにこの東部エリアでインバウンドを取り込むローカルDMC((デスティネーション・マネジメント・カンパニー))っていう旅行会社がないなと思ってますね。なんなら私立ち上げちゃおうかなってくらい思っているんですけど、どんどんお金をを出していただければ嬉しい、私にじゃなくて、事業者にということですね。はい。お願いできればありがたいです。

最後に一つですね、私の社長は、日本全体をプロデュースするために海外商談会に行って、日本のいろんな地域のいいところをやるんですけども、一番の人気はなんと伊豆のわさび収穫体験です。

もういろいろ、例えば石川県の人間国宝の九谷焼を作る体験とかいろいろあるんですけども、全部ぶっ飛ばして一番人気があるのはわさび収穫体験です。静岡県は気付いてないイケメンですね。ぜひ鈴木知事よろしくお願いいたします。

あと、2点目ですね。とりあえずちょっとおまけなんで恐縮なんですけれども、先日インバウンドの旅行会社が100名ほど集まるオンラインの会議にでまして、富士山の入山料についてっていう話があったんですけども、ちょっとあのB様の話と逆にしまして、申し訳ないんですけども、インバウンド旅行業界は富士山の入山料がもっと高くてもいいと思っています。アンケートをとったところですね、2000円、4000円、6000円それ以上1万円っていう枠でアンケートを取ったらですね、なんと80%以上の方が1万円以上は別に構わないという話をしています。

ただ、あの何なら富士山は本当に世界の方が求める山なので、憧れの山にしてしまってもいいんじゃないかなと思うんですね。

ただ、それは逆に、ここは(B氏と)一緒の意見なんですけれども、インバウンドからどんどんお金をとって、地元の例えば遠足ですとか、教育とかそこはもう全然値段を変えて安くしてもいいのかなと、あとは静岡県民割、山梨県民割みたいなのがあったりするといいのかなと、お金を取るところからじゃんじゃんと取っていただいて、押さえるところは押さえてしていただければ嬉しいなというような小山町の麓に住む一住民としての考えです。

はい。ありがとうございます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

次にI様よろしくお願いします。

(I氏)

はい。よろしくお願いします。皆さんこんにちは。

私はですね、長泉観光交流協会のIと申します。

今回はですね、このような貴重な機会を作っていただき、本当にありがとうございます。

今日は二つの話をさせてもらいます。

一つは観光交流によるまちづくり、でもう一つが新文化施設についてです。

まずですね、自己紹介的になりますけど、私は実は民間企業の出身です。はい。

よく言われるんですけど、行政出身じゃないのって言われますけど、完全に民間です。

民間企業で働いていてそのノウハウが、地方の創生にですね、生かせると思いまして、54歳で早期退職して、今の活動を続けています。

長泉町の観光交流ビジョンであります、「住み続けたいまちづくり」、この実現をですね、目指して活動しています。

では、長泉観光交流協会についてはどんな協会なのっていうのを紹介します。

当協会は、字のごとく、観光協会ではありません、観光交流協会です。

イベントなんかをですね、開催して観光客を増やすことを求めているわけではありません。

イベントを通して来訪者と町民、それから町民同士、そして子供たちと交流を深めています。

そうすることで、長泉のファンを増やすっていうことをやってます。

ファンを増やして住み続けたいまちづくりの実現を目指しています。

じゃ、どんな活動をしているかっていうとですね、長泉町はいわゆる観光地ではありません。なので、いわゆる観光協会が行うような活動はしていません。

住み続けたいまちづくりというビジョンのもと、地域住民と一緒に、もう以前から地元にある、もう足元にあるですね。その資産、これをですね活用することで、交流を広めたり深めたりという活動を行っています。

今では伊豆半島ジオパークの中でもユニークな活動をする団体として認知されています。

毎年ですね、なんと長泉町に海外からですね、視察団が訪れるようになりました。はい。

それから旅行会社もですね、長泉町を伊豆の玄関口として認知してくれました。

また、長泉らしいもてなしの案内も評価されていて、いわゆる観光地ではないのに、8年前から多くの観光バスが立ち寄るようになってくれました。

当協会は常にお客様の要望を、お客様の気持ちになって考えてるつもりです。

もうこれが民間出身という感じですよ。はい。

このお客様ファーストの対応によって、ツアーとかイベントの参加者が増加してます。

さらにはですね、リピーターも増えました。

つまり、長泉ファンが増えていると考えています。

またこの対応は、教育現場でも口コミで広がってまして、小学校中学校高等学校、それから特別支援学校から、それも町内外から町内外からですね、教育支援の依頼が増えています。

去年は 23 回行いました。

また直近ではですね、県と町の職員の皆さんとの支援で支援のもとで、長泉町のクレマチスの丘にあります新文化施設でも活動をしています。

新文化施設っていうのは、すいません。

新文化施設っていうのは、庭と彫刻と自然が調和した素晴らしい場所です。

行ったことございますかね。

贅沢な空間とかですね、癒しの空間とも言われる場所です。

そこでいろいろな催しを開催したり、この空間を維持する保全活動を行っています。

例えばバラとクレマチスの剪定と育成、マルシェの開催、癒しの空間の提供、真夏のびしょ濡れイベント、ファミリー向けのハロウィン、星空の観察会、鏡池の清掃と水生生物観察会、などなど、施設の活用モデル案としてですね、実施させてもらっています。

新文化施設で多くの催しをやってきてわかったことがいくつかあります。

まず一つはですね、施設のこの贅沢な空間とか癒しの空間と言われている場所を提供するだけなんです、それだけでも数百人から 2,000 人を超える集客があります。

またですね、庭とか池の保全活動をやったときはですね、なんと交通費を払って参加料を払ってでも参加したいっていう施設のファンが多数いるっていうこともこれでわかりました。

そして新文化施設で具体的に活動してきたものとして気づいたことを最後に述べさせていただきます。

施設での催しの集客数は、駐車スペースが制約条件になってます。

今は催しのたびに、県や町の職員の皆さんのご尽力とスルガ銀行のご協力で駐車スペースを確保してもらってます。

新文化施設が今後どのような運用になっても十分なスペースの駐車場が必要になると思っています。

それなしには、多分、新文化施設の活用はなかなか難しいというふうに考えてます。

また、今の新文化施設では食べるものも飲むものも購入できません。

オープンするときには、あそこの場の雰囲気合った食の施設が必要になると思います。

そして、今後ですね、新文化施設のブランディングビジョンっていうのをですね、示してもらえると、オープン前に私達のような、団体がですね、そのビジョンに合わせた施設の活用モデル案っていうのにトライできるというふうに考えています。

ぜひよろしくお願いいたします。以上です。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

次にJ様お願いいたします。

(J氏)

資料がどっかっちゃったんですけど、お待ちください。

私は、三島市から来ましたJといいます。

今日はこのような場を設けていただいて、またここに参加できることにとても感謝しています。ありがとうございます。

私はですね、三島に移住してきて、神奈川から移住して 8 年目になりまして、今は、元々はデザイン業、DTPデザインという媒体系のデザインをしていたんですけども、こちらに移住してからは、農業 6 年目、林業に今 2 年目に入ります。現場に入ってですね、もちろん現場に従事するんですけども、生産者としても従事するんですけども、主にプランニングですね、サポートして媒体系デザイナーという立場でサポートをしています。

その立場からでのご意見がいくつか現場からの声を聞き聞いているので、共有させていただきたいと思います。

まず県東部の地域の観光活性についてですね、先ほどもですね、まさにHさんがおっしゃった三島のフードカルチャーレネサンスさんは私のすごく、とても仲良くさせていたでいる農家さんの 1 人です。

東部といえば、まさに富士山がそのロケーションが生かした観光がいいなどは個人的には思っているんですけども、やはりさっきおっしゃっていた通り、東部の方はその価値にちょっと気づいてないのかなと。

その一つで、まず農家さんとのコラボレーションで耕作放棄地を利用した新しい取り組みをしたり、農家さんもですね、結構優秀な方が本当にいらっしゃいます。

百姓と言われているだけあってですね 100 の仕事をこなされる農家さんたちはですね、いろいろなところでノウハウをお持ちですので、縦割りではなくですね、農業、飲食、観光、林業、優秀な人材が融合した地域連携プレーを行いたいということは願っていらっしゃいますが、そこに立ち上がる課題というのはたくさんありまして、例えば東部は、傾斜面がある山側の方の畑についてはですね、まず水道や農道などのインフラがほぼ全くといっていいほど整っていない状況。

水に関してはですね、例えば農家さんが、育苗ハウスに毎日 3 回、住宅街から 500L のタンクで水を運んでいるような状況です。

水道が通せないんですけども、それは区画外ということだけで通せない、目の前に蛇口はある状態です。畑でのイベントや収穫体験、畑での潮流などロケーションは揃っているんですけども、イベントが行われず、トイレ問題もそうです。

そして道、軽トラがですね、2 台すれ違えないようなところがたくさんあります。こういったことが時間のロスを生んでいまして、生物相手の一次産業というのは品質に影響するという。逆を言えば灌水能力が安定化されている場合は品質の向上に繋がるということです。

次土地ですね、従業員の駐車場にする場所を作りたいなと、耕作放棄地で交渉したところ



そこは開墾再整備というのは補助金の対象になりませんと、こういったこともですね、ものすごくネックになっていて、観光活性というところに皆さんが優秀な人材の方々が集まったところで壁はとても高い。そこを一つ一つくぐり抜けるために本当に皆さん地元愛を持って向き合ってらっしゃるんですけれども、こういったところにサポートがいただければありがたいなというところですよ。

あとですね、観光として付加価値を盛り込んだガストロノミーツーリズムってことですね。例えば、オーガニックだったり今世界でもスタンダードになっている有機の生産物、これに対して、日本は有機JASというものが取得できるんですけれども、ここへのサポートがやはり声が多く届いています。

有機農家さんがですね、市場では量と質ともに慣行の既存の流通にはですね、とてもかなわない状況ではあります。

これはもう工夫次第だとは思いますが、ダイレクトでご商売されてます。

大体、有機の農家さんはダイレクトで商売されてる。要するにJASを取得するコストメリットがまだないということです。

ただしJASを取ればですね、やはり日本全国で進んでいるオーガニックビレッジ宣言だったり、また給食への供給にもこういったことが寄与するんじゃないかということで地元からの農家さんからの声でも、こういったことに対する経費だけ、取得だけの経費だけじゃなくて人件費のコストだったりラベル貼りの単純なルーティン業務などに対しても様々なところで費用がかかるというところをもう少しですね、サポートができればいいのかなと思ってます。

あとはこれはご意見の一つでいただいているのは、自動車重量税っていうのが一般財源に捉えて持ってかれてるんですけれども、入ってると思うんですけれども、こういったところも多分、環境負荷軽減という意味合いを持ての税金だったとしたら、こういったところを生産者の方に充てられるのかどうかという、そういう話も出ています。

後ですね、まずさっきですねCさんもおっしゃってましたね。小規模体験事業者へのやはりこういったところに、もうちょっと強くサポートを入れていただきたいということを、ビジネスモデルを構築するために支援をしていただく。

やはりですね、いろんなイベントがあっても、宿泊問題がありますので、三島市においては約 8,000 件の空き家があります。

割とこういったところを民泊でゲストハウスとしてリノベーションする。現在三島市だけで、おそらく私が知ってる範囲で 3 件ぐらいしかありません。

まだまだもったいないので、こういったいろんな価値ある建築物があるので利活用していきたい。

ここもなぜか入れがなかなか入らないのかっていうと、まず三島市が空き家に対しての管理というか、あとマッチングですよ。

そういったところがまだできていないんじゃないかなという肌感です。

あと、こういった地域環境を地域資源を使った観光活性について、私が思うところでは、やはり支援に対しては丁寧な土台作り、あとですね、えいやって勢いでコンサルさんに投げちゃう傾向があるんですね。

これをやると、結局形にならないでお金が無駄に終わるって、これ結構多発してるので問題だなと思うんですけど、もっと地元を愛する人材がこのような課題に向き合うようにしていくための何かステークホルダーの見える化ということもしていただければと思います。これが県なのか市なのか本当に管轄がどこにあるのかで、だいぶいろいろあると思うんですけども、地元の課題、声を吸収してちょっと共有させていただきます。

もう一つ、ちょっとお時間が押してすいません。

スタートアップの推進について、これはもう知事が本当に政策として飾っているもので、今ものすごく勢いがついて、この間も牧之原でまきっチャ。

(知事)

まきチャレね

(J氏)

まきチャレもすごくてですね。

もうびっくりなグローバルな大会になっていて、私は今三島でスタートアップイベントっていうもっとエンジェル的な、あのスタートアップ初めてだよっていう方を対象にイベントを行っているんですけども、今回知事もですね、審査員として、初登壇していただいて本当にありがとうございます。

その中でですね、スタートアップの東部の課題っていうのが少し見えてきてるので共有させていただきます。

元々ですね、東部はやっぱ古き良き付き合いがものすごくあって、もうスタートアップやっても身内感満載なんですね。

もう本当に身内の方で一生懸命スタートアップ。ただ、今までそれでやってきたから新しい発想が必要なのがスタートアップであって、もう少しやっぱ新しい空気を必要だとは思いますが、これもまた強みだなと思っているので、例えば農業林業スタートアップの推進、要するにカテゴライズしたスタートアップの推進、東部の魅力に特化した分野でのスタートアップ推進、林業につけば林業環境譲与税というものをもうちょっと見える化、元々は確か環境譲与税というのは復興税がそのまま移行されている。なので目的がちょっと明確化されてないので、知事のいう1円も無駄にしないという、もうまさにですね、PDC Aをしっかりして、いただいたところでのこの森林環境譲与税をそこに充てていくとか、あとですね、農業については新規アイディアというだけではなく、元々ある農家さんに特化したスタートアップ、アイディアを育てるには、こういったカテゴライズするとですね、やっぱりその専門性が必要になるので、そのアイディアを育てる意味でもスタートアップなんです

けれども、教育がやはり必要だなとその教育は今、農業林業に関しては、中学校、高校生に関してはちょっと企業教育をされて、今いるんですけれども、こういったカテゴライズされた教育に関してもうちょっとJAだったり市場生産者の人が教育現場に入って、それが未来の人材を育成するっていうところからの要するに、動線ですね、を作っていけたらいいのではないかというふうに思います。

そうですね、様々な問題はあるんですけれども、総じてですね、新規の人たちが良い魅力的なスタートアップをしても、規制が結構強いというところも一つの問題かなと思ってるので、こちらですね、ぜひ県の方でも、検討に入れていただければありがたいと思います。

長々といろいろ言いましたが、以上でございます。

ありがとうございました。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは 3 名の方のご発言を知事よろしくお願いいたします。

(知事)

はい。ありがとうございました。

Hさんも専業としてね、何か富裕層のインバウンドをお取り次ぎしていただけてますけれども、本当おっしゃる通りだと思います。

僕も、本当静岡って何か自分たちがその価値に気付いてないなという風に思うんで、私もあの静岡に住んで、こんなに住みやすいとこないと思うんですけど、外から来た人ほど、それを評価してくれるんですね。

僕らみたいに、静岡県内で生まれて、静岡の中で育ってきてると、これが当たり前だと思っちゃうと、結構そうじゃないと。さっき言った富士山もですね、河口湖から見る富士山だけじゃないんですね。これ意外と、絶対東伊豆(正しくは西伊豆)から見る富士山、駿河湾と富士山バーンって、この絶景ですよ。こういうのがね、あまり知られてないんですよ。やっぱりそういうのをPRしていきなさいいけないと思うし、もちろんあの観光予算をつけることも大事ですけども、やっぱりアイデアなんですね。例えば今、県のアドバイザーにした小原さんね、佐賀の嬉野で、和多屋別荘ですね、老舗の旅館をやってる方いるんですけど、この人は何とか嬉野茶をね、ブランド価値を上げたいって、お茶農家さんと組んで、茶畑に巨大な円台作って、そこで、農家さんが講釈を入れながらね、お茶をたてて、煎茶ですね、煎茶とか紅茶とかですけども、それをこだわった器で出すんですね。

これはね、3 種類出すんですけども、一杯 5,000 円なんですよ。

ほとんど今まで旅館でただで出してたお茶が、一杯 5000 円なんですよ、1 万 5000 円で予約取れないんだよね、もうみんなインバウンドでした。

で、僕も行きましたけど、確かに自然豊かなね、お茶畑ですから、環境はいいですけど、景色は別にね、なんちゅうことないんですよ。

で、これ僕は富士山が見えるね、お茶畑で同じしつらえでやったらねどうかって言ったら、小原さんが市長(正しくは知事)それ10万とれますよって言うんですよ。

俺もそう思ったんだ。あの嬉野ので、1万5000円でいけるって言ったら、あの、富士山の麓のね、もうすごいお茶畑で同じしつらえでやったらね、10万円でも外人バンバン来ると思いました。そういう、もう本当、何かちょっとしたこのやり方ね。

そういうものが実はこれが大事で、さっきワサビの収穫体験やるって言ったけど、ちょっと僕お茶の体験から、今ふとこの前思いついたのが、ワサビって、なんかお刺身のね、脇役じゃないですか常に。

そうじゃなくて、ワサビを主役にしたらどうだろうと。

だからそれこそ伊豆のね、世界農業遺産になってるような、あの、水ワサビを取ってきて、それをですね、これからいろいろお手前とか作らなきゃいけないけど、ワサビをちゃんと擦るね、作法を作ってますね、ワサビを主役に、そこにいろんなあの新鮮な食材ね、旬の魚とか持ってきてそれを食べさすみたいなのやったらね、これ相当外人から金取れるんじゃないかなと、密かに俺は思ってるんですけど、なんかそういうね、いろんなやっぱりこれから、今ある素材をいかにですね、磨き上げて、付加価値つけてくかっていうのがね、すごく私大事だなというふうに思いました。ありがとうございます。

入山料もね、もう本当いろんな意見あるんですよ。おっしゃるように、安すぎるって意見もありますし、高すぎるって意見もありますし、なかなか、あのただ、さっきヒントいただいたね、インバウンドと国内の人たちの料金を分けるっていうのもこれ一つの手だと思いますし、いろいろ料金体系考えるってのは、これからやっていかなきゃいけないなというふうに思いました。ありがとうございます

Iさんからは、あの、ヴァンジ彫刻美術館ですね、いろいろ長泉の方々がイベントやったり、いわゆる庭園の整備だとかですね、やっていただいてって聞いてたんですけども、Iさんがやっていただいてたことが、今わかりました。ありがとうございます。

(I氏)

うちの協会がです。

(知事)

協会でね。はい。本当にありがとうございます。

あの施設僕もすごい素晴らしい施設だと思って。いただいたね課題は、まさにその通りなんです。もう駐車スペースをいかに確保するかっていうことと、これから今民間からアイディア募集してますけども、やっぱり中心になるねテナントはですね、こだわった飲食とかですね、そこが多分中核になっていくと思いますけども、あれだけの施設なんで、うまくです

ね、活用していきたいと思いますし、引き続き長泉の協会の皆さんと一緒にですね、コラボしながら施設を活性化していきたいなというふうに思いました。

Jさんからいろいろ現場のご意見いただきまして、ちょっと細かいことは今日担当が来ますんで、またあの農業ですね、林業の課題等につきましてはですね、改めてお答えをさせていただきたいと思うし、スタートアップについてご提案もありました。あの、これスタートアップってもちろん産業政策の意味もありますけども、地域課題解決ってのも、実は、スタートアップがすごく力を発揮する部分でありますので、今、よく自治体からですねスタートアップにきてもらって地域課題、行政課題をですね、提案して、それに対してスタートアップとかがですね、解決するためのアイデアをもらうみたいなですね、これ浜松市長時代でもやって結構これ、あの周辺の首長たちも喜んでくれたんですけど、これから地域課題解決にもですね、このスタートアップってのはすごく活躍してくれるんじゃないかなというふうに思いますし、まきチャレがね、本当すごいです。牧之原、あんなちいちゃなね、牧之原の、ついこの前第4回のまきチャレの表彰式やったんですけど、今年168件の募集があって、そのうち73件が海外からなんです。すごいですよ、だから田舎の小ちゃな町でできないんでって思うことがおかしい。

何でできてるかっていうとそこにXXさんっていうね、やっぱカリスマキーマンがいるからですね、東京でベンチャーキャピタル経営されてる方なんすけど、牧之原出身なんで、牧之原でその牧之原チャレンジコンテストっていうのを始めてですね。

彼のアイデアで、国内じゃなくて海外からいろんなスタートアップの募集をしようというんで、海外からどんどん今増えてですね、牧之原でできるんだからどこでもできるんすよ。誰がやるかってことだけなんです。

結局やっぱりキーマンがやっぱりそうやっているとですね、必ず地域は活性化をするというもう典型的な私は例じゃないかなというふうに思っております。

あの東部もめっちゃめっちゃスタートアップの可能性、僕は高いと思う。

NTTやってるね。加和太建設のXXさんもいますし、これからの東部にもですね、スタートアップのコミュニティをですね、作っていききたいと思いますし、私もう労を惜しんでスタートアップのイベントにはですね、どんどん出席をしますんで、この前もまきチャレも行ってきましたけれども、スタートアップウィークエンドとですね、もう毎回大体、審査員やって、最後の交流会まで出てますんで。浜松市長の時は20回以上いきましたんでね。

(J氏)

ほんとですか。

(知事)

はい。これスタートアップウィークエンドの事務局の人も、もう呆れてびっくりしてですね、大体こんなイベントに市長が来ることないし、最初から最後まで、ピッチの審査員もやって

るって浜松市だけだって言われましたけども、それくらいあの、やっぱりスタートアップをやってくにはですね、やっぱりみんなと同じやっぱりコミュニティに入って一緒に汗かかないと駄目なんで、それ私も知事になってですね、これからも今度は全県にこのスタートアップのね、和を広げていきたいと、東部はものすごくポテンシャルあると思いますので、頑張らしましょう。また。ということでちょっと長くなりましたけれども、私からは以上でございます。

(広聴広報課長)

ありがとうございました。

それではですね、以上をもちまして、知事広聴「やすとも知事と県政を語ろう」を終了いたします。

本日はありがとうございました。